

外来語の形態論研究：外来語系接辞と新語形成¹

田 川 拓 海

1. はじめに

1. 1. 目的

本稿の目的は、外来語を対象にした形態論研究に関するトピックを取り上げ、問題の整理と言語現象に対する考察を行うことである。具体的には、下記の問題を取り扱う。

(1) 本稿の目的

- a. 現代日本語（共通語）において外来語の接辞として認定できるものにどのようなものがあるか概観し、観察・記述を行う。
- b. 外来語の接辞に関する研究の観点として、A) 異分析、B) 方言や打ちことばのような言語変種との対照、の2つを検討する。
- c. 外来語の新語形態として「タビる」を例に取り上げ、能動態と受動態で意味・用法にずれが生じている可能性について基本的な観察・記述を行う。

1. 2. 研究の背景

日本語研究においては、和語はもとより、漢語を対象にした文法研究・形態論研究の成果も豊富である（大島・中島・プラン（編）（2010）、斎藤（2016）等多数）。一方、外来語を対照にした文法研究・形態論研究には未開拓なところも多く残されているが、和語・漢語の研究成果をうまく活用することで比較的スムーズに研究を進めることができるのではないかと考えられる（茂木（2012）、田川（2016、2018b））。

語種に関する情報が音韻的あるいは形態的な現象だけでなく文法的な現象においても影響を持つことは知られており、たとえば英語では語種²によって生起できる構文に違いがあることが明らかになっている（加賀（2001）、Takeshita（2015）とその引用文献を参照）。

(2) 英語におけるラテン系／ゲルマン系の生起構文の違い

- a. 不変化詞構文：write/*compose it up
- b. 結果構文：fill/*inflate it full
- c. 二重目的語構文：Chris purchased {*Tom some food / some food for Tom}.
- cf. Chris bought {Tom some food / some food for Tom}.

(2)に簡単に示したように、複数の構文で似た意味のゲルマン系の動詞は生起可能な

のにラテン系の動詞が生起できないということがある³。二重目的語構文に関しては、意味的に対応する前置詞句を用いたパターンではゲルマン系、ラテン系の両方が可能である。一方日本語研究では、語種との構文の対応について管見の限りそれほど明示的な指摘はないように思われる。

日本語については、漢語・外来語の動詞・形容詞は語構成・形態変化が迂言的(periphrastic)になりやすいと指摘されることがある。

(3) 和語と漢語・外来語の違い(動詞)

	分析的(analytic)	迂言的
a. 和	語：走る、食べる、	… 恋する、涙する、陰干しする、…
b. 漢	語：詐欺る、拒否る、	… 勉強する、蒸発する、…
c. 外 来	語：サボる、ググる、	… コピーする、バックする、…
cf. オノマトペ：	テカる、ピヨる ⁴ 、	… ふらふらする、むずむずする、…

(3a) に示すように、和語はその語に直接屈折接辞が付く(≒活用する)場合が多く、スルを付けて動詞化する迂言的なパターンは複合語を除けば「恋」「旅」「涙」など少数の語に限られる。一方で漢語と外来語についてはスルを付けて動詞化するのが一般的で直接屈折接辞が付くものは少なく、いわゆる新語・流行語のようなあまり定着しているとはみなされていないようなものや一部の話者にのみ用いられる語彙にも対象を広げなければ探すのが難しい。ちなみに、これらからは独立した語種であるとされることもあるオノマトペも漢語・外来語と似た振る舞いをするようでありスルを付けて動詞化するパターンが生産的である。

(4) 和語と漢語・外来語の違い(形容詞)⁵

	分析的	迂言的
a. 和	語：暑い、重い、	… 嫌な、明らかな、清らかな、…
b. 漢	語：雑い、酷(こく)い、	… 清潔な、簡単な、明確な、…
c. 外 来	語：ナウい、エモい、	… シンプルな、ヘビーな、…

形容詞については少し事情が異なり、和語にも迂言的なパターン(ナ形容詞⁶)は少ないが、漢語・外来語についてはやはり分析的な振る舞いをする語(イ形容詞)は少なく、迂言的になる語が一般的である⁷。

スルを付けた動詞化やナ形容詞化は、名詞との連続性の問題をはじめ文法研究においても重要なトピックであり、語種を語彙研究や音韻論研究だけでなく文法研究、形態論研究の対象にする価値は十分にありそうである。

2. 外来語の接辞

2. 1. 認定の方法

前節で外来語を対象にした文法研究・形態論研究そのものがそのほかの日本語研究の水準から見るとまだそれほど十分に行われてきていないと述べた。ケーススタディや記述、ほかの研究トピックに関連して言及されることも少ないものに、外来語系接辞、すなわち接辞そのものが外来語である形態が挙げられる。個別の接辞に関する研究としては「プチ-」「ミニ-」を詳しく記述している林（2015）や、「フル-」の接辞としての可能性に言及している田川（2018b）等がある⁸。

外来語に付いていると接辞そのものも外来語化しているのかが分かりにくいという点が外来語の接辞研究特有の難しさとして挙げられる。たとえば、スポーツ等で「準決勝」を指す語として用いられる「セミファイナル」に「セミ-」という接頭辞が含まれているように見えるが、英語でも“semi-final”という語は用いられるため、この語全体が丸ごと借用された可能性がある。日本語において「セミ-」が接頭辞として機能するのかわという点をはっきりさせるには「セミファイナル」という語が日本語において使用されるというだけでは根拠として弱いのである。

日本語においてある外来語の形態が接辞であると示すためには、その形態が日本語特有の語に付くことを示すのが有効であるということ提案したい。具体的に利用可能な現象としては少なくとも下記の2つが挙げられる。

（5）日本語における外来語系接辞認定の手がかり：

外来語の接辞である可能性がある形態が、

a. 和語や漢語にも付く。

b. 和製外来語に付くか、接辞が付いた語全体が和製外来語になる。

これらの手がかりが得られなくても他の手段を用いるか個別の考察を経て外来語の接辞であることを確かめられることもあるだろうが、（5）のいずれかを満たせばその形態が外来語の接辞である可能性はかなり高いと言えよう。

たとえば、田川（2018b）で取り上げられている「フル-」は次に示すように漢語の動名詞に付くことができる⁹。

（6）接頭辞「フル-」が付く漢語動名詞（田川（2018）：48）

フル改造、フル解体、フル回転、フル加速、フル活用、フル稼働、フル参加、フル参戦、フル充電、フル出演、フル出場、フル装備、フル代表、フル動員、…

ただし、「フル-」には「才能をフルに発揮する」のような独立用法があるので、後述するいくつかの候補と同様、接辞として考えるにはさらなる検証が必要かもしれない。

2. 2. 外来語の接頭辞

まず、接頭辞について大まかに否定系、強意系、その他の3つに分け概観する。

漢語の否定形の接頭辞としては「非-」「不-」「未-」「無-」がよく知られている¹⁰が、外来語で確実に否定の接頭辞と言えそうなものは少ない。

(7) 否定系の外来語接頭辞の候補

- a. アンチ-：アンチ-巨人、アンチ-嵐¹¹ (cf. 嵐-アンチ)、…
- b. ノー-：ノー-タッチ、ノー-コメント、ノー-カウント、ノー-ギャラ、
ノー-カット、ノー-マーク、…

「アンチ-」は和語・漢語にも付くが、「ファン」の対義語のような位置づけの独立用法があり(例：彼にはファンも多いがアンチも多い)、また「嵐-アンチ」のように語の後ろに付く例もあることから、接辞というよりは複合語の一部とも考えられそうである。

「ノー-」は和語・漢語に付く例を見つけるのが難しいが、多くの外来語に付く。また、「ギャラ」は日本語における短縮形だと考えられるので、「ノー-」が「ギャラ」に短縮された後に付いたと言えるのなら、「ノー-」を外来語の接辞と認定できる可能性は高まる。

現代日本語の外来語の最も大きな借用元である英語には、ほかにnon-、un-、in-等否定の接頭辞が存在するが、それらが日本語においても外来語の接頭辞になっていることを示すような例はあまり見つからなかった。

和語・漢語の強意形の接頭辞としては「超-」「激-」「くそ-」「鬼(おに)-」等が挙げられ生産性が高いものもあるが、外来語の候補では生産性が高いものはそれほどないようである。

(8) 強意系の外来語接頭辞の候補

- a. スーパー-：スーパー-小学生、スーパー-堤防、スーパー-銭湯、…
- b. ハイパー-：ハイパー-ヨーヨー、ハイパー-研究所、…
- c. ウルトラ-：超-スーパー-ウルトラ-高-画質、…

「スーパー-」は漢語にも付く例があり、「スーパー-堤防」や「スーパー-銭湯」のように特定のものを指す固有名詞に近くなっているものもあるが、「スーパー-小学生」「スーパー-女子高生」「スーパー-優等生」のように単純に強意の意味を付け加える用法も複数観察され、強意系の外来語接頭辞である可能性が高い。「ハイパー-」は「ハイパー-ヨーヨー」のように特定のものを指す例が少数見つかる以外は、「ハイパー-リンク」のように全体が外来語として借用されたものが多い。

強意系の外来語接頭辞に特徴的なのが、(8c)に示すように強意系の接頭辞を重ねて使用する例が観察されることである。このような現象を仮に「同種接辞クラスター」と

呼ぶことにしよう。「ウルトラ-」は固有名詞や専門用語以外では生産性が高くないようだが、このように強意系の同種接頭辞クラスターを形成するには他の接頭辞と合わせて強意性を高める機能を果たしているように見える¹²。

ただし、web検索では「スーパー／ハイパー／ウルトラ-な／だ」といったパターンが少なくない例が見つかるので、上述の「アンチ」と同じく独立用法が存在する可能性には注意が必要である。

(9) その他の外来語接頭辞の候補

- a. ビッグ-：ビッグ-ニュース、超-ビッグ-お団子、…
- b. メガ-：メガ盛り、…
- c. ポスト-：ポスト-構造主義、ポスト-安倍晋三、
- d. プレ-：プレ-入試、プレ-調査、…
- e. セルフ-：セルフ-給油、セルフ-うどん
- f. ベスト-：ベスト-記録、ベスト-体重、ベスト-日程、…
- g. ハイ-：ハイ-センス、ハイ-タッチ、

(9) にその他の外来語接頭辞としてまとめたが、「ビッグ-」「メガ-」はモノや程度の大きさを表しているため、強意系としても良いかもしれない。「ビッグ-」は外来語に付く例が多いが、「ビッグ-ニュース」のように和製外来語の例や和語・漢語に付く例も少数見つかる。「メガ-盛り」は「大盛り」よりさらに量が多いものを指すのが一般的なようである¹³。「ビッグ-」には「ビッグなお知らせ／特典／存在」のような独立用法も見られる。

前後関係を表すものとして「ポスト-」「プレ-」が挙げられる。「ポスト-」は辞書にも立項があるぐらいすでによく用いられている語であるが、「ポスト-〇〇-主義」のタイプは元々全体が英語で“Post-”の形をしているものも多い。ただ「ポスト-人名」のタイプもよく用いられており、「ポスト-」自体は外来語であると言って良いだろう。「プレ-」は「入試」や「調査」等の行為やイベントを表す語に付き、「予備」のような意味を表す。「プレ-」を「プレ-入試」の短縮形として用いることのようなケースを除いて、「ポスト-」「プレ-」の独立用法がある程度安定していることを示す事例は今回見つからなかった。

「セルフ-」は「自分で」のような意味を表し「セルフ-給油」がかなり定着しているほか、『スーパー大辞林3.0』¹⁴に「セルフ-うどん」の立項があった¹⁵。「ベスト-」は「最も良い」の意味で「記録」や「日程」等漢語にも多く付く。「ハイ-」は「高い(こと)」を表し外来語に付く例が多いが、「ハイ-センス」や「ハイ-タッチ」のように和製外来語も含まれている。ただし「セルフ-」「ベスト-」「ハイ-」はそれぞれ安定して独立用法が観察される(例：セルフのガソリンスタンド、ベストな記録、ハイな状態)。

以上ごく簡単に外来語の接頭辞の候補を見てきたが、独立用法があるものも多く、「接辞」の定義・範囲を厳密に絞るなら接頭辞というよりは複合語の前項要素と考えた

方が良いのかもしれない。

2. 3. 外来語の接尾辞

次に外来語の接尾辞の候補をいくつか取り上げる。接尾辞については接頭辞のように意味で分類できるほど整理ができていないが、和語・漢語の接尾辞と同様範疇（品詞）変化を伴う¹⁶ものが見受けられる。たとえば、下記に挙げられている例ではナ形容詞「コミカル」に接尾辞「-aizu」を付けることによって動名詞「コミカライズ（する）」が、名詞「小説」に接尾辞「-ライク」を付けることによってナ形容詞「小説-ライク」が形成されている。

(10) 外来語接尾辞の候補¹⁷

- a. -aizu：コミカライズ、…
- b. -イズム：黒澤-イズム、…
- c. -マター：係長-マター、…
- d. -ライク：小説-ライク、(cf. 沖縄-チック)
- e. -ズ：レストラン-ズ、宅飲み残念乙女-ズ（マンガのタイトル）
- f. -ロス：ペット-ロス、嵐-ロス、…
- g. -ingu：レベリング、…
- h. -ii：ボリューミー、…
- i. - (r) aa：アムラー、マヨラー、クチャラー、バックラー、…

「コミカライズ」は「漫画化する」というほどの意味で、和製外来語である。外来語「コミカル (komikaru)」の最後の母音がなくなり「-aizu」を付けていると分析することもできるが、英語の“comical”にやはり英語の動詞化接尾辞“-ize”を付けてできる仮想の英語の語“comical-ize”を和製外来語として用いているとも考えられる¹⁸。

「-イズム」は辞書にも立項がある通り、「主義」や「説」を表しよく固有名に付き生産性も高い。「イズムを継承する」といった独立用法があるが、英語でも接尾辞“-ism”は名詞化しており、英語の独立用法が借用されたという可能性もある。

いわゆるビジネス日本語で用いられる「-マター」は「-案件」に近く、「係長-マター」は「係長が扱う／に関する物事」のような意味になる。「-ライク」は「～に似た／のような」というような意味を表し、類似で既存の接尾辞に「-チック」がある。複数を表す「-ズ」はスポーツのチーム名以外でも用いられる例があり、和語・漢語に付くこともある。また、デパート等のレストラン街に「レストラン-ズ」という名称が用いられている例があるが、英語の“restranrant-s”をそのままの音で外来語化すると「レストランツ」に近いはずなので、和製外来語と考えて良いのではないだろうか。「-ロス」は「何かがなくなること（に起因するネガティブな精神状態）」を表し、和語・外来語にも付く。この中では「-マター」と「-ロス」に独立用法がある。

英語の動詞+“-ing”はそのまま外来語として日本語の動名詞になっているものも多いが(ビタン(2012、2017))、「-ingu」が動詞化接辞として日本語で機能していると思えられる例が見つかった。「レベリング(する)」は主にゲーム用語として「レベル上げ(をやる)」という意味を持つのだが、英語では“level-ing”という語形成自体は可能であるものの、そのような意味にはならないようである。同じく和製外来語に見つかる接尾辞の候補に「-ii」がある。これは英語の形容詞化接尾辞“-y”(例:“sleep”→“sleep-y”)の借用ではないかと考えられるが、たとえば「ボリューム」からの派生であると考えられる「ボリュームミー(な)」は「ボリュームがある」というほどの意味で和製外来語と言って良いだろう¹⁹。

2. 4でも取り上げる「～する人」を表す「-(r)aa」はおそらく英語の動作主を表す接尾辞“-er”からの借用であるが、初期の「安室(奈美恵)」からの形成である「アムラー(安室奈美恵のような格好・服装をする人)」以降、「マヨラー(マヨネーズを良く使う人)」「クチャラー(くちゃくちゃ音を立てて食べる人)」のように普通名詞(の一部)やオノマトペ形態に付く例もある。「バックラー」は「ぱっくれる」からの形成であり、特にバイト等を「無断でさぼったり辞めたりする人」を指す。

現代英語にはその他にも多くの接尾辞があり、“-less”、“-abl(ity)”、“-ful”、“-ish”等からの借用の例があるのではないかと見当を付けて探してみたが、現段階では良い例を挙げるに至っていない。

2. 4. 外来語接辞と異分析、対照研究

ここでは、外来語の接辞研究の個別のトピックとして、異分析と対照研究を取り上げる。

英語由来の外来語接尾辞には、異分析が観察される。「異分析(metanalysis)」とは、「本来とは異なる箇所形態素境界が意識されて語形が変化すること」(斎藤・田口・西村(編)(2015):99)である。英語では“a napron”が“an apron”に、“Hamburg-er”が“ham-burger”に分析し直された例等が有名であるが、斎藤・田口・西村(編)(2015:99)では、日本語の例として「そこら-へん」から「-らへん」が「～の辺り」を指す形態として切り出され、「東京-らへん(東京の辺り)」と用いられるようになった現象を紹介している。

(10i)の-(r)aaはおそらく「アムラー」が発祥ではないかと考えられるのだが、そうするとその派生は「amuro」に接尾辞「-aa」が付いて「amur-aa」になったというものである。この「amur-aa」の「r-aa」の部分が接辞「-ラー」として切り出された異分析が起こった可能性がある。そう考えなければ、「マヨ-ラー」や「クチャ-ラー」等の例の語形は説明するのが難しい²⁰。

「-(r)aa」ほどはっきりとはしていないが、もう1つ異分析が起こっている可能性があるのが「-aizu」である。この接尾辞には、形態が「-naizu」であると考えないと分析が難しいバリエーションが存在する。

(11) 外来語接尾辞「-naizu」の例

- a. 尼崎で香川ナイズな讃岐うどんが食べられるお店
(<https://ameblo.jp/udon-rally-user/entry-11931670555.html>、2019/10/04確認)
- b. …、ヨーロッパ、北米、南米の計6都市を東京ナイズしています。
(<https://tabi-labo.com/275238/tokyo-lization>、2020/2/28確認)

(11) に示すように、「地名+ナイズ」の構成を持つ語がある。これは、元々は「アメリカナイズ (amerikan-aizu)」のような例から「-naizu」の部分が異分析を受けて接尾辞「-naizu」が切り出されたと考えると分析が可能である。そうすると、(10a) も「-(n) aizu」とするのがより正確な表記ということになる。このように異分析が可能な接尾辞が複数あることは英語と日本語の音韻構造の違い（形態末子音の可否等）を考えると不思議なことではないが、借用や外来語研究を行う際の1つの研究トピックになるのではないだろうか。

次に、日本語内での変種間における対照研究の可能性について簡単に触れる。

まず、いわゆるウチナーヤマトグチに(10i)の「-(r)aa」と似た「～する人」を表す接辞「-(j)aa」がある²¹

(12) ウチナーヤマトグチの接尾辞「-(j)aa」

- a. ゆくし (嘘) → ゆくさー (嘘つき)
- b. ちぶる (頭) → ちぶらー (頭が良い人)
- c. 遊ぶ → あしばー (遊び人)
- d. 暇する → ひまさー (暇している人)
- e. じん (金)+もつ → じん-むっちゃー (金持ち)
- f. りっち (rich) → りっちゃー (金持ち)

この接辞は生産性が現代共通語の「-(r)aa」に比べると高く、(12d)のように句(少なくとも単純語より大きな単位)に付いたり、(12e)のように名詞の抱合(incorporation)が可能だったり適用範囲も広い。この接辞は琉球語からある存在しているものなので現代共通語の「-(r)aa」と異なり英語の“-er”からの借用であると考えるのは難しいが、興味深いのは、「りっちゃー」という外来語「リッチ」に付く例もあるということである。現代共通語で外来語「リッチ」に「-(r)aa」が付く例はなく、このようなペアがさらに見つけられれば接辞の生産性や語種の組み合わせに関する対照研究が可能になるかもしれない。

さらに、英語の“-er”由来という点では、書きことば(打ちことば)特有の外来語接尾辞「-er」が面白い。

(13) 書きことば（打ちことば）の外來語接尾辞「-er」

- a. HTML-er, Java-er, Ruby-er, NLP-er, …
- b. 言語学-er、松屋-er、タピオカ-er、スタバ-er、…
- c. 代表的な子音、母音は競技言語学erとしても知っておいた方が間違えなく得だと思えます。

(<https://ryoanjing.hatenablog.com/entry/2019/03/03/011257>、2019/10/04確認)

これは意味としてもおおそ「～する人」で英語の接尾辞“-er”と同じように見え、(13a)に示すように元はプログラミング言語や頭文字語で示される分野名に付く用法が英語からそのまま流入したのではないかと考えられるのだが、(13b、c)に示すように外來語以外にも付く例が見られる。まだweb検索でようやく見つかるぐらいでそれほど一般化はしていないようであるが、特に分野名や店名、商品名を表す名詞に付き、「～が好きな人／をやっている人」を表すようである。たとえば「言語学-er」であれば「言語学を好きな人／勉強している人」、「松屋-er」であれば「松屋を好きな人／良く利用する人」のような意味を表す。

この接尾辞は日本語においても表記“-er”が保持されている点が特徴的であり、音声言語との対応はあまり考えていないのではないかという例も散見される。たとえば、「言語学-er」を「げんごがかー」というように音声化することはあまり想定されていないのではないだろうか。もしそういうことがあれば、単に例が書きことば(打ちことば)でよく観察されるというだけではなく、その特徴にも書きことば(打ちことば)特有の側面があるということになる。

このように、動作主を形成する外來語の接尾辞には、共通語だけでなく方言や書きことば(打ちことば)といった日本語内の複数の変種に類似の形態・現象が観察され、対照研究の可能性がある。

3. 「タピる」とその意味

いわゆる新語・流行語にも外來語が多く観察されるが、ル動詞の一種である「タピる」に面白い性質がある。「ル動詞」とは「名詞などの語頭2拍から4拍を語基として、そこに語幹末尾子音 r を付けて作られた子音語幹動詞である。(中略)ほとんどは若者ことばで、臨時的な口語の動詞である。」(上野(2016):122)とされる。

(14) 外來語と関係するル動詞(上野(2016):123、一部単純化した)

メモる、デモる、ミスる、ガスる、ハモる(＜ハーモニー)、ダブる、サボる、コピる(＜コピー)、オペる、デニる(＜デニーズ)、マクる(＜マクドナルド)、モスる(＜モスバーガー)、ピリる(＜ピリヤード)、カフェる(＜カフェテリア)、ハゲる(＜ハーゲンダッツ;「ゲ」鼻濁音不可)、トラブル、パニクる、スタンバる

本節では、館野(2019)で指摘された、ル動詞の1つである「タピる」が能動態と受動態で異なる意味を持つ特徴を持つという記述を紹介する。

「タピる」は比較的新しいル動詞であり、タピオカを用いた飲料の流行に伴って2018年-2019年に流行語として話題になっている。

1位に選ばれた「タピる」は、タピオカを飲む時や飲みたい時に使用されています。「タピりたい」た(原文ママ)「タピった」などタピオカを動詞として使用し、タピオカ全盛期とも重なり今年多くの女子中高生の会話の中で使用されました。【JCJK流行語大賞2018】【コトバ部門】、
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000012.000017469.html>、2020/02/18確認)

まず、「タピる」という能動態で使用される場合の基本的な意味は、「タピオカ関連飲食物を飲む・食べる」であるが、他の意味・用例も観察される²²。次は、「飲食店がタピオカに関する商品を売り出す」という意味・用法の例である。ここからの意味記述と用例は基本的に館野(2019)に基づくが、一部意味記述を整理したところもある。

(15) 「飲食店がタピオカに関する商品を売り出す」意味(館野(2019):7)
え？

マックタピってなかったんだ～

そうなるとまだまだタピって無い店は探せばあるのかも…

今日行った実家の近くのイオンの中もサーティワンが無くなって、タピオカの店に変わるらしいです。

(@R5UZKFKcMSEOXUB(高橋正代)、Twitter、2019/7/26、23:04、
<https://twitter.com/R5UZKFKcMSEOXUB/status/1154754322892128256>)²³

「タピる」に特徴的なのは、受動態では能動態にない意味で用いられる場合があるのではないかということである(館野(2019):13-21)。まず受動態の場合にのみ観察される意味・用法に「新たにタピオカ専門店が店舗し場所が変化する」というものがある。下記の例では「乗っ取られた」というような文脈から、話者がこの状況をネガティブに評価していることが伺える。

(16) 受動態のタピる1:新たにタピオカ専門店が店舗し場所が変化する

あああああああんめっちゃ大好きだったチーズタルト屋さんがタピられた！！！！タピオカ屋さんに乗っ取られた！！！！うわあああああああああああんひどいよおおおお流行の横暴だ！！！！！！！！！！

(@pk_azuma(吾妻あさひ)、Twitter、2019/8/11、20:45、
https://twitter.com/pk_azuma/status/1160517467426312194)

またこの例では「チーズタルト屋さん」が変化を被った（なくなった）ことを表しているが、このような特定の店舗だけでなく、施設名や駅前といった場所に対して用いられることもある。この用法では新たな出店があったことよりも、かつて存在していたスペースや場所がなくなったことに焦点が当てられており、能動態でこの意味・用法に対応する例は見つけるのが難しい。

次の受動態特有の意味・用法として「商品や食べ物にタピオカが新たに用いられる」というものがある。

(17) 受動態のタピる2：商品や食べ物にタピオカが新たに用いられる

ゴディバのショコリキサーまでタピられたのか。ショコリキサーのダーズリン飲みたい。しかしタピオカは要らない気がする。

(@r_youta (龍@4歳2歳)、Twitter、2019/8/24、5:56、
https://twitter.com/r_youta/status/1165246416635056129)

これは既存の商品・飲食物にタピオカが追加されたことを指して用いられる例が多い。ただし、この意味・用法は分析によっては(15)と対応しているとも考えることもできるかもしれない。たとえば、(17)は対応する能動文を「ゴディバがショコリキサーをタピった」のように考えるのである。そうすると受動態特有の意味ではないということになる。

以上の2つは良く観察されるのだが、少数見つかった意味・用法として「タピオカ飲食物（のゴミ）が捨てられる」というものがある。ただしこれも場所が影響を受けているので1の意味・用法の亜種と考える可能性もある。

(18) 受動態のタピる3：タピオカ飲食物（のゴミ）が捨てられる

渋谷駅周辺、ゴミ箱を置くとタピられるから片っ端からゴミ箱が撤去されてて凄かった

(@ui_nyan (私がういにゃんだ)、Twitter、2019/9/22、3:21、
https://twitter.com/ui_nyan/status/1175716825746661376)

ここでは簡単に実例を紹介しただけでさらなる分析が必要であるが、特に「駅前でタピられた」のような例は対応する能動文の存在を考えることが難しく、受動態特有の意味があるとは言えそうである。たとえば「忙殺」のように受動態でしか用いられない動詞もあるので能動態と受動態で意味や用法が必ずしも対応するわけではなく、この「タピる」の振る舞いはル動詞や新語・流行語独特のものではないが、面白い現象であることは確かである。

4. おわりに

4. 1. まとめ

本稿では外来語を対象にした形態論研究の基盤を作ることを目的に、外来語の接辞と新語「タピる」およびそれぞれの関連現象や特性について概観した。外来語研究は、ある程度の蓄積がある語彙研究や音韻論研究を含めても全体としては未開拓の領域が様々に残されており、接辞や新語形成に対する文法的・形態論的研究は特に進んでいないようである。これは捉え方を変えれば新たな研究の可能性が多く眠っているということでもある。

4. 2. さらなる広がり

本稿では詳しく触れることができなかったが、その他の品詞・文法範疇にも外来語がないかということも新しい研究につながる可能性がある。たとえば茂木(2019)では田中(2016)の助動詞に関する研究が紹介されているが、ここではいわゆる文末名詞について簡単に指摘しておきたい。

(19) 外来語の文末名詞の候補

- a. 筑波大学は、キャンパスが広くて駅から遠いイメージです。
- b. *筑波大学は、イメージです。
- cf. この街は、* (住みやすいという) 印象です。

澤田(2014)のようにかなり網羅的な調査を行っている研究でも外来語は基本的に調査対象から外されているようであるが、(19)に示すように文末名詞「印象」とかなり似たような振る舞い(連体修飾節が必須)を示す外来語名詞「イメージ」がある。

格や屈折に関わる典型的に文法的な要素は和語のような固有の語によって担われることが基本であるが、助動詞や文末名詞のように「語彙的」な要素由来であるが何らかの文法的な機能を獲得した要素については、外来語研究の対象になる可能性も十分にあると言えそうである。

参考文献

- 伊藤たかね・杉岡洋子(2002)「第1章 語形成とレキシコン」原口庄輔他(編)『語の仕組みと語形成』1-18, 研究社。
- 加賀信弘(2001)「意味役割と英語の構文」原口庄輔ほか(編)『語の意味と意味役割』, 89-181, 研究社。
- 林慧君(2015)「日本語における外来語の類義接頭辞—「ミニ」と「プチ」の場合—」斎藤倫明・石井正彦(編)『日本語語彙へのアプローチ—形態・統語・計算・歴史・対照—』, 27-43, おうふう。
- 茂木俊伸(2012)「文法的視点から見た外来語—外来語の品詞性とコロケーション—」陣内正敬・田中牧郎・相澤正夫(編)『外来語研究の新展開』, pp.46-61, おうふう。
- 茂木俊伸(2015)「コーパスを用いた外来語サ変動詞の分析:「マークする」を例として」『文学部論叢』106, 83-95, 熊本大学。
- 茂木俊伸(2016)「外来語は文の中でどのように使われるのか」『日本語学』35(7): 24-32, 明治書院。

- 茂木俊伸 (2018) 「「エモい」は「外来語形容詞四天王」になれるか？日本語研究者の熱視線」 (<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/1807/15/news004.html>, 2020/02/29確認)
- 茂木俊伸 (2019) 「第三章 外来語の氾濫と定着」田中牧郎 (編) 『現代の語彙—男女平等の時代—』, 32-42, 朝倉書店.
- 大島弘子・中島晶子・ブラン・ラウル (編) (2010) 『漢語の言語学』, くろしお出版.
- 斎藤倫明 (2016) 『語構成の文法的側面についての研究』 ひつじ書房.
- 斎藤純男・田口善久・西村義樹 (編) (2015) 『明解言語学辞典』 三省堂.
- 澤田浩子 (2014) 「知覚・思考・判断・意志を表す「文末名詞文」の使用実態—コロケーションから文型へ」 『日本語／日本語教育研究』 5 : 57-73.
- 田川拓海 (2007) 「二種類の範疇変化とその構造的定義：否定の接頭辞と右側主要部の規則」 『言語学論叢』 26 : 1-15.
- 田川拓海 (2017) 「接頭辞「小/大」の副詞修飾的解釈とRoot仮説」 『文藝言語研究』 72 : 83-97.
- 田川拓海 (2016) 「動名詞の構造と「する」「させる」の分布—漢語と外来語の比較—」 庵功雄・佐藤琢三・中俣尚己 (編) 『日本語文法研究のフロンティア』, 1-20, くろしお出版.
- 田川拓海 (2018a) 「分散形態論における語種の取り扱いと接辞の具現」 関西言語学会 第43回大会招待発表. (<https://takumitagawa.academia.edu/research>) からダウンロード可)
- 田川拓海 (2018b) 「外来語動名詞の形態統語研究に向けて—範疇, 語種, 形態構造—」 『文藝言語研究』 74 : 39-58.
- Takehisa, Tomokazu (2015) “Where Morphological Complexity Matters,” *Proceedings of PACLIC 29* : 167-175.
- 玉元孝治 (2019) 「金武方言の文法 (草稿) Ver.3.0」. (https://researchmap.jp/mud0xhvnf-2564776/#_2564776) からダウンロード可)
- 田中 佑 (2016) 「現代日本語における助数詞への外来語の進出—抽象的概念を表す「-ケース」を例に」 『文藝言語研究』 70 : 81-106.
- 館野早穂 (2019) 「SNSにおける新語・流行語の特徴—Twitterでの「る」ことばに注目して—」 筑波大学卒業論文.
- 上野義雄 (2016) 『現代日本語の文法構造 形態論編』 早稲田大学出版部.
- ビタン・マダリナ (2012) 「機能形態素-ingを含んだ外来語の形態・用法の特徴—「～する」動詞化の可否をめぐって—」 筑波大学修士論文.
- ビタン・マダリナ (2017) 「外来語サ変動詞の自他の計量的分析」 『筑波日本語研究』 21, 106-114.
- 若松弘子 (2018) 「日本語における英語定冠詞 the の借用について：料理サイトのデータから」 日本言語処理学会第24回年次大会口頭発表 (2018/3/13, 岡山コンベンションセンター).

注

- ¹ 本稿は筑波大学日本語日本文学会第42回大会パネルディスカッション「借用語と日本社会」における基調講演「外来語の文法研究・形態論研究」をベースに、未公開の部分をまとめさらに加筆・修正したものである。外来語動名詞に関する研究については田川 (2016, 2018b) を、それぞれの語種 (和語／漢語／外来語) の関係・対応に関する研究については田川 (2018a) を参照。
- ² 日本語研究ではよく「語種」が用語・概念として用いられるが、日本以外の言語の研究では語彙層 (lexical strata) という用語・概念が用いられることも多い。本稿の内容に関しては両者の違いは問題とはならない。
- ³ 中間構文では逆にラテン系の動詞が生起可能で似た意味のゲルマン系の動詞が生起できないという記述もある (加賀 (2001) : 176)。
- ⁴ 元は格闘ゲームで気絶したキャラクターの頭上にひよこが表示されることから、その状態を指す語であったが、そこから「ひどく弱った状態にある」「強いショックを受けている」といった一般的な用法も出現した。
- ⁵ オノマトペは形容詞か名詞かの判定が難しく例を挙げなかったが、少なくとも2モーラ反復形では名詞として安定しているものが多いようである。
- ⁶ ナ形容詞が本当に動詞の場合のスルに相当するほど迂言的であるとと言えるかどうかについては、検討

- の余地がある。また、本稿では名称として「形容詞／形容動詞」ではなく「イ形容詞／ナ形容詞」を用いる。後者がより語の形態が分かりやすい用語だからである。
- ⁷ 外来語のイ形容詞の少なさについては、茂木(2018)に指摘がある。
- ⁸ 若松(2018)で指摘されている英語の“the”の借用も、日本語においては接頭辞として研究できる可能性がある。
- ⁹ 林(2015)で取り上げられている「プチ-」「ミニ-」も漢語に付く例が多く挙げられている。
- ¹⁰ これらの接頭辞の性質や先行研究については、田川(2007)とその引用文献を参照されたい。
- ¹¹ 以降、本稿で言及する「嵐」はすべて日本のアイドルグループを指す。「嵐」はファンやメディアへの露出が多いためか、用例の数が多く語形成にも良く用いられていて観察・記述に有用であるため用いており、「嵐」を取り上げているそのほかの理由は特ない。
- ¹² web検索では「ウルトラかわいい」のような例が複数見つかったが、この場合の「ウルトラ」が接頭辞なのか副詞なのかは検討が必要である。
- ¹³ 「メガ」については英語の“mega”にも「ものすごく大きい」という意味がありそれが借用された可能性があるが、「メガ-盛り」よりさらに大きな量を「ギガ-盛り」「テラ-盛り」等と名付けるケースがあり、これは「メガ-」を単位を表す表現として捉えさらに大きな単位を表す「ギガ-」「テラ-」を用いているものと考えられる。
- ¹⁴ スマートフォンアプリ等に用いられるデジタル専用の「大辞林」であり、書籍版は刊行されていない。
- ¹⁵ 「自分で麺を茹で(あるいは茹でた麺を受け取り)出汁をかけ、自分の好きな具を選んで生産する形式の讃岐うどん店。香川県などに見られる店舗形態。セルフ店。」と説明されている。
- ¹⁶ 日本語を含む多くの言語で範疇変化に関わる派生接辞は接尾辞に多く観察されることが指摘されてきた。たとえば伊藤・杉岡(2002:2-5)等を参照されたい。
- ¹⁷ 正確な形態分析を行うといくつかの形態は仮名だけでは表記しきれないため、ローマ字表記を用いている。
- ¹⁸ 英語でも“comical-ize”という派生自体は可能であるが、元が形容詞“comical”なので日本語の「コミカライズ」のように「漫画化する」という意味にはならないと考えられる。日本語で「コミカライズ」になった要因としては、名詞“comic”に“-ize”を付けた場合の音(「コミサイズ」か「コミカイズ」)が「コミック」とかけ離れているように認識される、「小説化する」を意味する「ノベライズ(novelize)」があるので語尾が「ライズ」となるパターンが定着しやすかった、といったものが可能性として考えられる。
- ¹⁹ この例は上村圭介氏(大東文化大学)の指摘による。
- ²⁰ 一方で「ハマダー(浜田(雅功)のような格好・服装をする人)」のような例も早くからあったことから、接尾辞として「-aa」の形態が存在していたことが分かる(福盛貴弘氏(大東文化大学)の指摘による)。「シノラー」「バックラー」は元の語に子音/r/が含まれているので、異分析の例と言えるかどうかはさらに検討が必要である。
- ²¹ 玉元(2019:68)で金武方言に存在する類似の接尾辞の形態を-jaaとしているのを参考にした。ウチナーヤマトグチにはいわゆる伝統的な琉球語の語形成を反映しているものと、ウチナーヤマトグチ特有ではないかと思われるものが存在しており、ウチナーヤマトグチにおける当該の接辞の形態についてはさらに個別の検証が必要であろう。
- ²² Instagram等のSNSを介してタピオカと「タピる」が広まったということが背景にあり、「タピオカ関連飲食物の写真を撮ってSNSに公開する」ところまでを意味するのではないかと推測される例もあるのだが、この問題には深く立ち入らない。
- ²³ 以下、「タピる」の用例はすべてTwitterから採取したもので、引用方法はMLA Citation Guide(8th Edition)(<https://columbiacollege-ca.libguides.com/mla/socialmedia>)の書式を参考に日本語用にアレンジしたものである。また、話者名に含まれている絵文字は省略した。

(たがわ たくみ 筑波大学)